

長崎ウエスレヤン大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		長崎ウエスレヤン大学		設置者名	学校法人鎮西学院				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
						実数	個別		
現代社会学部	国際交流学科	40人	中一種免(英語)	平成17年度	20人	2人	2人	0人	
			高一種免(英語)	平成17年度			2人		
	社会福祉学科	50人	高一種免(福祉)	平成17年度	50人	1人	1人	0人	
			高一種免(公民)	平成17年度			1人		
	地域づくり学科 (平成21年より募集停止)			中一種免(社会)	平成17年度	9人	1人	1人	1人
				高一種免(公民)	平成17年度			1人	
経済政策学科	70人		中一種免(社会)	平成22年度					
			高一種免(公民)	平成22年度					
入学定員合計		160人	合計		79人	4人	8人	1人	

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年12月6日（月）

実地視察大学：長崎ウエスレヤン大学

実地視察委員：八尾坂修委員、高倉翔委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・1学部3学科で教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程について、教職課程認定基準等と照らし合わせ、改善が求められる点がある。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・「グローバルな視点とローカルな視点を同時に併せ持つことのできる複眼的思考能力を兼ね備えた教育者」の育成を基本とし、以下の教育目標を掲げている。
 - ①人間愛に基づき他者を理解しようとする姿勢を持つ教育者の養成
 - ②自分を磨く喜びや学ぶ楽しさを他者と共有できる教育者の養成
 - ③知識を的確に伝え得る表現力・コミュニケーション能力を備えた教育者の養成
 - ④異文化や異なる立場にも柔軟に対応し福祉コミュニティの形成に寄与できる教育者の養成
 - ⑤現代社会の諸問題を総合的・複眼的に理解し適切に対応できる教育者の養成

<講評>

- ・教員養成に対する理念や構想が示されており、それを明確化・具体化するための方策への取り組みを進めている。
- ・貴学の理念を生かした教員養成の取組の成果がどのように現れているか、教員として就職した卒業生についての結果検証なども行い、教育課程・教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めること。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・一部の学科の教育課程において、科目区分の半数を超えて全学共通科目・他学科開設科目が当てられているため改善が必要である。
- ・教職に関する科目「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」区分に開設する科目として、「社会教育」に関する科目はなじまない。現在、同区分に専任として配置している教員は社会教育が専門であるため、科目及び教員について適切に配置すること。

- ・入学定員の変更に際して必要な手続きが取られていなかったため、教職課程に携わる事務体制を強化し、教職課程の基準に応じた必要な手続きを遺漏無く行うこと。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・法人内の鎮西学院高等学校、長崎県内学校及び諫早市内中学校、実習生の母校にて行っている。なお、半数～7割は母校にて実習を行っている。
- ・教育実習中は教職専任教員が実習生を指導している。また、教職課程運営委員会委員が実習校を訪問し、実習校教員と連携しながら指導を行っている。
- ・評価については、実習校からの評価のほか、実習日誌、実習レポート、実習への取り組みなどを総合的に評価している。

<講評>

- ・平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」に示されたように、教育実習においては、課程認定大学と実習校の協力により、授業案を作成したり、教材研究の指導を行うなど、大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れることが必要である。また、実習実績の評価についても、適切な役割分担の下に、協働して行うことが適当であるが、その場合には、実習校により評価にばらつきが生じないように留意する必要がある。
- ・母校実習については、平成18年7月答申において、大学側の対応や評価の客観性の確保の点で課題も指摘されることから、できるだけ避ける方向で見直すこと。
- ・実習校と連携して教育実習を実施していることは評価できるが、近隣の都道府県や学校において実習を行ったり、同法人の運営する鎮西学院高等学校と連携を進めるなど、更に大学として実習校を確保する取組も検討すること。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・諫早市教育委員会による諫早市立小・中学校への「学習指導補助員」配置事業に学生を派遣している。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・教務課職員が随時窓口で履修相談を行っている。
- ・教職課程運営委員会委員の教員が半期ごとに教職課程履修者全員に対して面談を実施しており、この面談においても履修指導や履修相談を行っている。

<講評>

- ・教職課程履修者が少人数であることを生かして、一人ひとりに応じた教職指導を行っている。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・「教職に関する科目」及び「教科に関する科目」の専任教員、教務学生課長、教務学生課職員で構成する教職課程運営委員会がある。教職課程実施にあたっての必要事項の検討や、教育実習・介護等体験に際して学内外との連絡調整を行ったり、学生の教職指導にあたっている。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・施設については、学生数の規模に応じて整備されている。
- ・学生の履修記録を把握するためのシステムを構築していることは評価できる。教職課程の運営に活用すること。
- ・教職に関連する図書はさらなる充実を図ること。